

吹奏太郎



Omoigawazakura



Oyamabuta



Oyamawagyū



Gionmatsuri



Oyama Hyoutei



目 次

★巻頭言	2
「2021年コロナ禍の中で」	
栃木県吹奏楽連盟理事長 三橋 英之	
★1. 東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想	3
中学校の部 B 部門 宇都宮市立陽東中学校 部長 石川 百合	
高等学校の部 B 部門 栃木県立佐野東高等学校 部長 小野 美月	
高等学校の部 A 部門 作新学院高等学校 コンサートミストレス 堀米 十愛	
コーチ 大貫 茜	
職場・一般の部 宇都宮音楽集団 団長 水内 孝至	
★2. 東関東マーチンコンテストに参加しての感想	6
壬生町立壬生中学校 部長 早乙女胡春	
★3. 第53回栃木県アンサンブルコンテストについて	7
★4. 応募してみませんか	7
とちぎテレビ「わいわいボックス」	
CRT 栃木放送「クラシックガーデン」	
★編集後記	8
栃木県吹奏楽連盟広報部 沼尾 和子	

「2021年コロナ禍の中で」

栃木県吹奏楽連盟理事長 三橋 英之

日頃より栃木県吹奏楽連盟に対しまして、ご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

私はこの4月の総会において、加盟団体の皆様のご承認をいただき、理事長に就任いたしました。微力ながら、これまで築きあげてきた連盟の歴史を引き継ぎ、皆様のご意見に耳を傾けながら、時代に即した活動を心がけていこうと決意したところです。

さて、コロナ感染症の影響は想像を絶し、昨年度は様々なイベントが延期や中止に追い込まれました。また吹奏楽コンクールなども中止になり、当時の最上級生たちは活動が激減した現状に落胆し、我々も彼らにかけける言葉に窮しました。それでも多くの加盟団体の最上級生たちは満足に活動させてもらえなかったにもかかわらず、立派にやり抜いたことと思います。その姿は後輩たちに良い手本となったはずです。

今年度は、昨年ほどではないものの少しずつ例年並みに活動がされている状況に喜びを感じており、様々な制約はあるものの、やれることはやっておこうというポジティブな姿勢で連盟の運営を展開していこうと考えております。皆さんは演奏活動を存分にやれていますでしょうか？

コロナ感染症が落ち着くまでには、まだしばらく時間がかかることを考えますと、イベントは控えた方が良いという声が聞こえてきます。これは仕方がないことかもしれませんが、いかにして感染させないかを工夫し、徹底した感染防止対策を講じ、何とかやれないかと奔走するのが、我々の使命ではないかと思えます。連盟には、具体的なビジョンを示し、子どもたちの努力を踏みにじらない姿勢が求められています。文科省から指針が示されたとおり、教員の働き方改革の一環として、部活動を学校型部活動から地域型部活動に移行しようとする動きがはっきりとしてきています。我々は部活動のあり方が変わろうとも、子どもたちに寄り添い、存分に演奏活動ができるように体制を整備することも求められているのだと自覚して活動していこうと考えています。連盟は子どもたちのやる気に寄り添いながら、積極的に後押しする取り組みを実行して参ります。

今年度は、どのような形であれ、とにかくステージ上で演奏し、審査していただくことを優先させて運営して参りました。そのため出演者は演奏後、コロナ感染症対策のため、他の団体の演奏を聴くことなく帰校する形式をとりました。他の演奏を聴くことは今後の音楽作りに勉強になりますから、残念な思いをさせてしまいました。また、宇都宮市教育委員会の指導により第27回東関東吹奏楽コンクールへの出場権を獲得していた宇都宮市立の4中学校がこの大会に出場できない事態に陥りました。私も含めた連盟関係者のみならず、多くの方々が何とか出場できないかと奔走してくれましたが、実演奏での出場は叶わず、県大会時に録音した音源による審査での参加となりました。実演奏での参加を予定していた子どもたちの心情を考えると、残念でなりません。因みに教育委員会の指導によりこのような事態になった参加校は東関東支部では、宇都宮市と他の一地区の公立学校だけでした。審査の結果は4校ともに銀賞を受賞いたしました。このことは4つの中学校の県大会時点での演奏が、東関東吹奏楽コンクールで銀賞を受賞するに値する演奏だと評価された、とても立派な結果だと思います。

今後も新型コロナウイルス感染症禍において子どもたちが悲しい思いをしないよう連盟が一丸となり、活動の一助となるように努め励んで参りたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

1 第27回東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想

- 令和3年9月 4日(土)・5日(日) 高等学校の部 A 部門 中学校の部 A 部門
会場：よこすか芸術劇場
- 令和3年9月11日(土)・12日(日) 高等学校の部 B 部門 小学生の部
会場：宇都宮市文化会館
- 令和3年9月18日(土)・19日(日) 中学校の部 B 部門 大学の部、職場・一般の部
会場：ザ・ヒロサワ・シティ会館

「目指せ！月旅行！ ～東関東吹奏楽コンクールへの思い～」

宇都宮市立陽東中学校吹奏楽部 部長 3年 石川 百合

「東関東大会・東日本大会通り越して月大会まで行けるね！」そんな何気ない顧問の先生の言葉で私たちは、最後の音を月まで届く位に響かせられるように、「〇〇に乗って月旅行！」を合言葉に日々練習に取り組んできました。

代表選考会では思い通りに演奏ができなかった部分があり、とても悔いの残る演奏となりました。なので、東関東吹奏楽コンクールに出場できることが決まった時は、信じられない気持ち、そして更に大きな舞台上で演奏できる嬉しさで胸がいっぱいになりました。後日その時の音源を聞き、今回失敗した点を修正し今度こそは悔いのない演奏をしようと、みんなで話し合いもしました。

その後、栃木県に緊急事態宣言が発令され全員揃って練習することが困難となりました。思う様に練習が出来ない中、限られた時間を効率的に使うにはどうすれば良いか一人一人が考え、本番で演奏することを楽しみに協力して練習をしてきました。

しかし本番当日、私たちが会場で演奏することはありませんでした。1週間前に私たちの学校は音源審査になることが決定したからです。

コンクールが中止となった昨年から二年分の強い思いが、私たちの実力以外の部分で絶たれてしまったことはすごく悔しいです。もし会場で演奏出来ていたら・・・仕方ないとわかっていても、東関東という景色をこの最高のメンバーで見ることが出来なかったことが、ただただ悔しいです。

コロナ禍で当たり前だったことが当たり前ではなくなり、今まで私たちは恵まれた環境で活動を行うことが出来ていたのだと改めて考えさせられました。

本番では演奏出来ませんでしたが、先生方や保護者の皆さまの支えがあったからこそ、ここまで進むことができました。これからも私たちを支えてくださっている方々に感謝の気持ちを忘れずに一日一日を大切に過ごしていきたいです。



「音色に捧げた毎日」

栃木県立佐野東高等学校吹奏楽部 部長 3年 小野 美月

私たち佐野東高校吹奏楽部は1年生15人、2年生18人、3年生12人の計45人で活動しています。はじめに、今回コンクールで演奏した自由曲「中国の不思議な役人」について紹介します。私たちの先輩である佐野女子高校吹奏楽部が高等学校B部門で県予選を通過した曲で、とても思い出深い曲です。登場人物は3人の悪党たちと1人の少女、そして少女に誘われる3人の男たちです。男たちは通りすがりの人から金を奪うために、少女に窓辺に立って男を誘惑するよう強要します。拒んでいた少女



写真提供：株式会社フォトライフ

ですが、結局は悪党たちに従い仕方なく窓辺に立って男を誘惑することに。主人公である役人3人は3番目で登場します。不気味な中国の役人の姿に怯えながらもためらいがちに誘いの踊りを始める少女。それを凝視する役人。恐ろしくなった少女は逃げ出し、役人との追いかっけこになります。ついに少女を捕らえた役人はともに倒れ込みます。吹奏楽版はここで終了となります。これが今回私たちがコンクールで挑んだ「中国の不思議な役人」です。

ここからは本番までの出来事についてお話します。コロナウイルスの影響で、部員の半分は毎日外で練習しました。たとえそれが風の寒い日でも真夏の炎天下でもです。この練習のおかげで、遠くに飛ばせる音を出せるようになりました。外での練習にも慣れ、順調だと思っていたところまさかの事態が起こります。吹奏楽部の部室でもある寮での練習が出来なくなってしまいました。その後、先生方が校内で他の練習場所を設けてくださったことで、練習が出来ないという最悪の事態は逃れました。しかし、練習可能な部屋にも限りがあるため全員での練習は出来ず、パートごとに人を分けるなどいろいろな工夫をしました。練習時間も例年より確保出来ず、個人の練習でどれだけ頑張れるか、これが鍵になったと思います。今回このコロナ禍での練習で一番大切だったことは、限られた時間の中でどのくらい効率よく時間を使うことが出来るかだと思いました。練習場所がなくなったり練習時間が短くなったりといろいろ大変でしたが、短い時間で効率的に最後まで諦めずに練習した結果、東関東出場につながったのだと思います。ずっと憧れだった東関東の舞台はとても緊張しました。本番が終わった後改めて考えると、このコロナ禍でも大会が開催されたということが一番幸運なことだと思いました。

私たち佐野東高校吹奏楽部は県内一と言っても過言ではないほど、練習環境が悪かったと思います。しかしそんな中諦めずに練習した結果がついてきたのだと実感しました。

東関東吹奏楽コンクールという貴重な経験をありがとうございました。

「挑戦」

作新学院高等学校吹奏楽部 コンサートミストレス 3年 堀米 十愛

2年振りの吹奏楽コンクールの舞台。部員のほとんどが今年の夏が初めてのコンクールで、不安が大きかった。また今年度は、作新学院にとって新しい歴史の幕開けとなった。我がチーフ顧問である三橋英之先生が指揮を降りられ、コーチの大貫茜先生と共にステージにあがった。新体制になってからまだ勝手が分からず、部員も先生方も試行錯誤しながら練習を進めていった。そんな時、指揮者の大貫茜先生と3年生で目標を語り合った。「全国大会に行く」その思いを口に出したその日から、

私たちはようやく全員で同じ方向を向いて歩
き出すことができた。

それからは、例年にはなかった新しい練
習を取り入れたり、お互いを励ましあったり
して過ぎていく日々があつという間で、とて
も充実していた。コロナ禍の為に例年より不
自由なこともあったが、練習ができてい
ること、大会の機会を与えて下さったこと
にいつも感謝の気持ちを忘れず、毎日をと
ても大切に練習に励んだ。



今振り返ると、私はこの夏で音楽を心から楽しむことができたと思う。今年
は課題曲Ⅳ吹奏楽のための「エール・マーチ」に自分たちで考えた歌詞をつけて
歌う練習を取り入れていた。歌詞は自分たちの思いが素直に綴られ、皆で歌
う度に仲間と音楽を奏でられる喜びを実感して涙が溢れそうだったのを覚
えている。メンバー全員がこの歌詞を大切にしている、この練習があつた
からこそ演奏に自分たちの思いをのせた熱い演奏が出来たと思う。

私たちがコンクールに思いをかけて過ごした日々、仲間との絆はかけがえ
のない宝物だ。これからも音楽を通して支えて下さる方々に感謝の気持ち
を届けていきたい。

コンクールの時期が終わった今日、それまで2チームに分かれて活動
していた私たちが、やっと一緒に活動できるようになった。総勢100名とい
う大家族だが、各々の個性が光るような素敵なバンドになるよう、仲間
を大切に過ごしていきたい。

「2年ぶりのコンクール」

作新学院高等学校吹奏楽部 コーチ 大貫 茜

昨年の事を思うと、出場出来るだけありがたいという気持ちの一方、常に
状況が変化する中でいかに効率良く練習するかを試行錯誤しながらのシ
ーズンでした。また今年度より恩師である三橋英之先生から引き継ぎ、
コンクールの舞台に立つ事になり、不安もありましたが、チームの皆に
背中を押され、練習から楽しく過ごす事が出来ました。

課題曲はエール・マーチ。高校生のリアルな青春の【エモさ】を表現
したいと考え、自然と演奏に気持ちが乗りやすい歌詞（思わず照れて
しまうような甘酸っぱい部分も…）を付け取り組みました。自由曲の
「科戸の鵲巢」は1人1パートという誤魔化しの効かない楽譜に苦
労しましたが（スコアは56段…）、鬼○の刃（作曲者的にはジ○り
だそうですが）をモチーフに奏者達と場面毎にストーリーを設定
することで楽しみながらドラマティックな演奏を目指すことが出来
ました。

本番はこの2曲を演じ切ることに没頭しました。55人の想いが音に
乗って輝き、この演奏を沢山の人の心に届けたい、この時間が永遠
に続いて欲しいと素直に思いました。12分間の情景が今でも鮮明
に思い出せるかけがえのない充実した時間。舞台上上がれないメン
バーやOBのサポートもあり、たく感謝の夏となりました。（ライブ配
信があつたせいか全国各地の知人から感想が届きました。演奏後
はありがちなエゴサをして多くの方の素直な感想を発見。これも配
信の良さですね!）

コロナ禍で厳しい時期もオン・オフの緩急を付け、マスクをして
ディスタンスは取っていても心の距離はいつも近く人に寄り添える
チームに成長しました。私達はどんな短い演奏時間でも、お客さん
が少なくても、無観客でも、常に聴衆の気持ちや感性に訴えかける
演奏を目指していきたいと考えています。

コロナ禍は続きますが沢山の方々に支えて頂きながら伝統を守りつつ新しいものを生み出し、音楽を通して人としてもアーティストとしても成長していける様、努力していきたいと思ひます。

「安堵と感謝」

宇都宮音楽集団 団長 水内 孝至

私たちの今年の吹奏楽コンクールは、9月19日開催の東関東大会まで続きました。演奏会を主たる活動とする私たちにとって、コンクールは、課題曲と自由曲の2曲を時間をかけて分析・練習し、音楽的に完成度の高い演奏を目指すことで、技術力や表現力を高める機会と位置付けています。そして、その過程で得た様々なスキルをその後の演奏活動に生かすことが大切と考えます。今年も、幸運にも県代表の推薦をいただき、県大会での演奏評価を参考に、東関東大会に向けて更に練習を積み重ねることで、多くの収穫と充実した時間を得ることができました。



思い返してみると、昨年春以来、すべては「新型コロナウイルス」により支配され、コロナの正体が少しずつ明らかになってきた今年も、コロナ禍前とは異なる「with コロナ」の生活様式へと生活は一変しました。私たちも、去年は数か月の活動停止。活動再開後も練習会場の時間制限や活動に参加できない団員がいたり、今年春以降はワクチン集団接種により練習場所の確保が難しくなるなど、演奏以前の問題が山積みでした。また、この8月の感染拡大第5波は、コンクールが中止となった昨年とは比較にならないほどコロナの脅威を身近に感じる事となり、県大会後に、会社や家族との相談で県外で行われる東関東大会への参加を見合わせたメンバーもいました。全国の中では、録画審査に変更した支部や、東関東においても、生演奏から録画審査に変更した団体が少なからずあったことなど、団としてのコンクール参加が正しい判断なのか、悩みました。何が正解かわからない今年のコンクールは、自分たちの結果だけを喜ぶことはできない大会でした。

大会が終わって2週間、何事もなく無事に終了したことに心から安堵しています。そして、このような状況の中で感じたことは、当たり前に行っていた演奏活動ができていた恵まれた環境に対する感謝でした。最後になりますが、感染対策を最優先に考え、コンクール開催にご尽力いただきました吹奏楽連盟の皆様へ感謝いたします。

大会が終わって2週間、何事もなく無事に終了したことに心から安堵しています。そして、このような状況の中で感じたことは、当たり前に行っていた演奏活動ができていた恵まれた環境に対する感謝でした。最後になりますが、感染対策を最優先に考え、コンクール開催にご尽力いただきました吹奏楽連盟の皆様へ感謝いたします。

2 第27回東関東マーチングコンテストに参加しての感想

令和3年10月3日(日)

会場：千葉ポートアリーナ

「東関東マーチングコンテストを終えて」

壬生町立壬生中学校吹奏楽部 部長 早乙女 胡春

私たち壬生中学校吹奏楽部は、東関東マーチングコンテストに出場させていただきました。コロナ禍により、生活が一変して早二年。今年とは異なり、無観客で大会が開催されました。私たちのため協議を重ね、万全の対策のもと大会を開催して下さった方々に、心から感謝しています。

壬生中は、栃木県マーチングコンテストで金賞をいただき、東関東大会への切符を手に入れました。部員全体のやる気と集中力が高まってきた矢先、学校がリモート授業となり部活動も中止となってしま

いました。しかし、顧問の先生方を始め多くの方々に支えられ、大会まで残り二週間に前に部活動を再開することができました。久々に会った時の仲間達の笑顔は今でも忘れられません。

練習では基礎に戻り、鈍っていた感覚をすぐに取り戻そうと全員が毎日必死になって練習に励みました。

そして本番。カンパニーフロントの時には、不安を乗り越え諦めずに努力をしてきて良かったという思いで胸がいっぱいになりました。この思いはきっと後輩たちのこれからもつなげることができたと思いました。

マーチングは、前へ進むときもあれば立ち止まるときもあります。けれど、「フォロワーリーダー」という言葉のようにリーダーについていけば、カンパニーフロントで最高の景色が待っています。振り返れば、私が皆を引っ張ってきただけでなく、皆が自分の背中についてきてくれたお陰だと感じました。

最後の大会で手にした「銀賞」は三年間の中で一番思いが詰まった賞となりました。今まで支えてくださった先生方、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

3 第53回栃木県アンサンブルコンテストについて

従来の実施方法とは、一部変更になっています。総会で配布された資料「要項・規定集・申込用紙」と併せて「栃木県アンサンブルコンテスト実施規定」（別冊資料）を確認の上、遅滞なく手続きをお願いします。

◇大きな変更点

- ♪ 地区大会 小学生、大学、職場・一般 → 地区大会なしで直接県大会
中学校、高等学校 → 従来通り地区大会を実施 → 県大会に推薦
※地区大会の詳細については、各地区の要項で確認してください
- ♪ 実施期日 令和3年12月26日(日) 小学生、大学、職場・一般
令和3年12月27日(月) 中学校、高等学校
- ♪ 会場 栃木県総合文化センター

4 応募してみませんか

連盟が直接行っているわけではありませんが、現在放送中の2つの番組を紹介します。総会で趣旨説明がありましたので、すでに申し込まれた団体、記憶している方も多いと思います。

- ・とちぎテレビ 「わいわいボックス」 響け!復活のハーモニー
毎週火曜日19時から放送 令和4年3月まで放送予定
インタビュー（顧問または生徒、団員）と演奏シーン（VTRを使用）
- ・CRT 栃木放送 「クラシックガーデン」
毎週土曜日21時から放送
ジャンル不問 音源データの提供または出張録音
申し込み締め切り 令和4年1月31日(月)

いずれも申し込み受付中です。

編集後記

栃木県吹奏楽連盟広報部 沼尾 和子

新型コロナ感染症 いつになったら終わるの…

思い切り楽器を吹きたい、大きな声で歌いたい、大きな声で笑いたい!

懐かしい人に直接会いたい!

感染状況は改善してきているとはいえ、次の波が来ないとは言い切れません。自分たちのためにも、医療現場の人々のためにも、当分は感染防止の細やかな対策を続ける必要があります。「油断は大敵」です。

今も続くコロナ禍。それでも、今年は夏に2つの大会を実施することができました。最悪を想定した準備と対応が求められ、マスク・消毒・検温はもちろん、考え得る限りの対策を講じて実施しました。両大会とも、いつもとは別の緊張感がありました。大会は開催できたものの、例年参加していても今年は見送った団体もありました。来年は、様々な制約が少しでも無くなり、希望する全ての団体が参加できる状況になることを願うばかりです。

コロナ感染症が広がり、ほとんどの方の原稿に周囲への感謝に加え、当たり前に行える事がどれ程貴重なことかが書かれていました。今回の原稿にも、自分たちの「今」があるのは周囲の支えによることを改めて実感した感謝の思いと共に、どのような形であれ「活動できる喜び」が溢れていました。この状況だから気づけたこと、取り組めたこと、発見できたこと、葛藤、新たな挑戦などが書かれています。それらは部員・団員にも指導者にも共通しています。音楽を、吹奏楽を愛好する私たちは「仲間」です。指導者仲間と情報を交換し、情報を共有し、自分たちに活用できることを随時取り入れてみましょう。裾野を広げて全体のさらなるレベルアップを目指して「今できる事」「今だからできる事」に目を向けて前進して行きましょう。

目まぐるしい対応を迫られたこのような状況の中、原稿をお寄せくださった方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。

《お願い》 各地区や団体の活動について、情報をお待ちしています。また、それぞれの立場や場面での要望・意見・感想なども、気軽にお寄せください。

なお、原稿執筆の依頼がありましたら、お忙しいとは思いますが、是非お書きいただき、期限内にお送りくださいますようお願いいたします。